

子どもを
どういう場所で
遊ばせたい？



8



9

8、9：小平団地
団地の中は黄金色に輝くイチョウ並木がいっぱい。
サクサク、落ち葉を踏む音が心地よい。
(東京都小平市)



10

10、11：品川八潮パークタウン
この団地には音楽スタジオとライブホールを持つ児童センターがあって、子どもたちは自由に音楽活動ができる。バンド仲間のふたりは団地育ちの幼馴染み。
(東京都品川区)



11

この冊子に登場するのはUR都市機構が手がける賃貸住宅です。
礼金や更新料、保証人、仲介手数料を必要としない点が特徴のひとつです。
一部を除いて、先着順で受け付けております。

UR賃貸住宅（首都圏）のお申し込みに関するお問い合わせ

フリーダイヤル **0120-411-363**
午前9時30分～午後6時（定休日：なし／年末年始を除く）

インターネットからのお申し込み

www.sumai.ur-net.go.jp



右のQRコードを対応端末で読み取っていただくと、
UR賃貸住宅のお申し込みサイトへアクセスできます。

この本の撮影にご協力くださったみなさん
大内家のみなさん、みさと団地少年野球部のみなさん、坂井家のみなさん、黒田家のみなさん、柴田
滯依さん、春日翔々路さん、八潮児童センターのみなさん

2014年4月1日 発行

発行：独立行政法人 都市再生機構（UR都市機構）技術・コスト管理部
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー
tel.045-650-0111（代表）

企画・監修：（株）オープン・エー
編集：安田洋平
編集補助：佐藤可奈子
撮影：一之瀬ちひろ
装丁：須山悠里
印刷・製本：（株）八紘美術

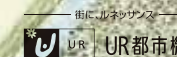
協力：団地R不動産 www.realdanchiestate.jp



暮らしと。
子ども



撮影：一之瀬ちひろ



子どもにとって、団地は今でもユートピアのような場所だ。敷地は広く、土や芝生があって、公園や遊具も充実している。夏になれば敷地内のプールに水が入って、自由に子どもたちが泳げる団地もある。木がたくさん生えていて、夏に親子でセミの羽化する瞬間を見たり、ふいにクワガタが飛んできて歓喜の声を上げることもある。秋になれば落ち葉とドングリがいっぱいだ。

子どもが遊びに夢中になり過ぎて、うっかり親が見失うことがあっても、同じ団地のおじいちゃんおばあちゃんが見ていて知らせてくれたりもします。

「暮らしと。」は、団地の環境を再発見するための写真集です。現在、「グリーン」「コミュニティー」「子ども」「スポーツ」「商店」の5冊を配布中。

(詳しくは www.kurashito.jp まで)

この本は「子ども」。カメラマンは、一之瀬ちひろさん。

一之瀬ちひろ プロフィール
1975年東京生まれ。2000年コニカフォトプレミオ入選。2012年銀座ニコンサロン個展「KITSILANO」。作品集に『ON THE HORIZON』(ARTS AND CRAFTS)『KITSILANO』(PRELIBRI)がある。2011年よりトルブックレーベル『PRELIBRI』の活動を始める。また、雑誌「暮らしの手帖」第4世紀55～67号の巻頭扉写真を担当。
<http://www.freaksphotos.com/chihiroichinose/>

表紙の写真＝取手井野団地(茨城県取手市)



1



2



3

1、2、3：取手井野団地
団地の敷地内に子ども用プールがある。
今でも夏になると、毎朝新しい水が入り、ママたちが子どもを連れてやってくる。
(茨城県取手市)



4

4、5：みさと団地
「みさと団地少年野球部」の子どもたち。
練習の合間にみんなでワイワイ食べるお弁当は格別だ。
(埼玉県三郷市)



5



6



6、7：神代団地
ゆっくりと流れる時間。広い空。のどかな風景。
(東京都調布市)